

## 令和3年度第1回庄原市学校・警察連絡協議会兼庄原市生徒指導主事等研修会

開催日：令和3年6月30日（水） 開催場所：庄原市ふれあいセンター集会室

参加者：庄原警察署、北部こども家庭センター、庄原警察署管内少年補導協働員連絡協議会、庄原市主任児童委員、庄原市内県立高等学校、庄原特別支援学校、庄原市内小・中学校、広島県教育委員会、庄原市児童福祉課、庄原市教育委員会

広域化、低年齢化する児童生徒の問題行動及びいじめ問題等について、学校と警察、関係機関等が組織的な連携を深めることを通して、児童生徒の問題行動及びいじめの未然防止を図ることを目的とし、研修会を行いました。

### 【講話】 「少年非行の現状と課題について」

庄原警察署 生活安全刑事課長 佐々木 智徳

広島県内の非行少年総数は減少傾向にあり、令和2年度は令和元年度と比較すると94人（10.4%）減少している。小学生は約1.5%、中学生は約2.5%減少しているが、高校生は4.5%増加している。

また、少年による特殊詐欺等への加担（少年が受け子として利用されるケース）が増加している。

庄原市の非行少年総数は増加しており、万引きや自転車窃盗、深夜徘徊などが増加している。

小学校のうちから規範意識を高める工夫をしていきたい。



### 【講話】 「児童虐待の現状と関係機関との連携について」

広島県北部こども家庭センター 相談援助第一課長 勝部 るみ

広島県内の児童虐待の相談件数は増加傾向にあり、北部地域でも同様である。虐待行為は連続・加速しやすく、虐待を発見することが援助の第一歩となる。早期発見により、ダメージが少なく、支援方法が多様に設定できるため、躊躇することなく通告をしてほしい。通告は、子供だけでなく、親、家族を救う行為である。

多様化、複雑化、潜在化した問題への対応は、一機関、個人では困難であり、張り巡らされたネットワークによるアンテナで早期にキャッチすること、ネットワークでの対応が必要となる。



### 【講話】 「庄原市における生徒指導上の諸課題の現状と課題について」

#### 【講話・演習】 「生徒指導の充実について」

庄原市教育委員会 教育指導課 指導主事 福田 和宏

全国の生徒指導上の諸課題と比較しながら、庄原市の生徒指導上の諸課題について説明した。いじめに対する組織的な対応や未然防止・早期発見につなげるための方策、児童生徒がともに高め合う学級づくりのポイントなどについて、演習を通して考えた。庄原警察署、北部こども家庭センター、少年補導協働員連絡協議会、主任児童委員、児童福祉課、小中学校、高等学校、特別支援学校など様々な立場から意見が交わされた。

### 【指導・助言】

広島県北部教育事務所 教育指導課 指導主事 須山 雅弘

全国的に児童生徒の自殺が増えている背景を踏まえ、子供に対して「SOSの出し方に関する教育」を含む自殺予防教育を実施するとともに、大人が「SOSの受け止め方」を学ぶ必要性がある。

児童生徒の状況を的確にとらえ、普段とは違う変化に気付こうとすること、細かな変化などの気付きを教職員間で共有する（伝える）ことなど、アンテナを高くすることが重要である。

#### （事後アンケートより）

- 生徒指導の充実を図っていく上で、SOSに気付くための具体的なポイントについて、教職員で確認を行い、全ての児童を全教職員で育てる意識を高めていきたいと思います。
- 日頃の取組の大切さについて再確認しました。生徒の居場所は何かあってからつくるものではなく、日々の中で作られていくものだと思います。その居場所は学級のみでなく、様々な活動場面でも必要になってくるので、学校全体が1つの方向に向かって、生徒の居場所づくり、生徒が輝ける場所づくりに力を注いでいかなければと感じました。
- 社会情勢（コロナ禍、休校）などが自殺の増加の要因になっていることが悲しく、残念に感じました。児童生徒が孤立しないように、児童委員としてできることからやっていきたいと思います。